

# 平成21年度事業計画

財団法人 滋賀県陶芸の森

## 1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして重要な産業である信楽焼をベースに、陶芸の世界的拠点となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また、陶芸館や創作研修館、産業展示館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

また、これまでに蓄積した情報、技術および国内外の人的ネットワークを生かして、子どもから高齢者まで多くの人が訪れ陶芸を体感することができる魅力ある企画を推進し、併せて効率化・活性化された施設づくりを目指す。

## 2 事業計画

### (1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園や施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供する。

#### ア 地域の観光拠点としての集客促進事業

##### (ア) しがらき学ノススメ

一般のやきものファンを対象に、やきものについて広く学んでもらえるよう体験講座を開催する。

##### (イ) イベントの開催

やきものをテーマにしたマーケット等を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供する。

### (2) 文化の向上と交流に資する事業

#### ア 展覧会開催事業

##### (ア) 「やきもの動物パラダイス」と「滋賀のやきもの」

平成21年4月1日(水)～平成21年4月12日(日) (平成20年度からの継続事業)

収蔵品を中心に、アジアや南アメリカそして国内の形象土器から現代作家たちの動物作品の数々を人と動物とのかかわりを通して紹介する「やきもの動物パラダイス」展と、歴史の中で培われた滋賀のやきもの文化を一望する「滋賀のやきもの」展の二つの展覧会を同時開催。作品約120点を展示する。

平成21年4月25日(土)～7月5日(日) 東京ニューオータニ美術館において巡回展示

##### (イ) 「陶の“うつわ”と“かたち”」

平成21年4月19日(日)～9月12日(土) 収蔵品から陶表現の魅力を二回シリーズで紹介

〔Part 1〕使ってみたい 愉しみの“うつわ”／心潤す 癒しの“かたち”

生活と「やきもの」をテーマに“うつわ”の魅力に迫るとともに、表現としての“うつわ”や静寂と詩情感をみせる陶の“かたち”を紹介する展覧会。作品約140点を展示する。

平成21年4月19日(日)～6月28日(日)

〔Part 2〕華やぎと味わいの“うつわ”／驚きと発見！ユーモラスな“かたち”

平成21年7月5日(日)～9月12日(土)

時代の変遷とともに多様化する“うつわ”の彩り、また「えーっ！」と、思わず驚きの声を出したくなるユーモラスな陶の“かたち”を紹介する展覧会。作品約140点を展示する。

##### (ロ) 「没後50年 北大路魯山人展」

平成21年9月19日(土)～12月13日(日)

美と食の巨人・北大路魯山人の生涯にわたる制作活動を、陶芸作品、書画、篆刻および漆芸作品を通じて回顧する。また、没後50年記念特集として、これまで明らかにされることがなかった「星岡茶寮の器」

も特集展示する。作品約180点を展示する。

(エ) 「ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新」

平成22年3月13日(土)～3月31日(水) (平成22年度継続事業)

ハンス・コパーは、“うつわ”から立体造形へと領域を広げ、陶芸の美的価値に新たな局面を開いた作家で、イギリスの現代陶芸の基礎を築き、20世紀の陶芸に大きな足跡を残した。このハンス・コパーの日本で初めての大規模な回顧展を開催する。作品約150点を展示する。

(オ) 「魅せられる…今、注目される日本の陶芸」

平成21年4月1日(木)～6月15日(月)

フランス国立セーブル陶磁器美術館(フランス)において海外巡回展示

平成21年8月7日(金)～10月18日(日)

サクラメント・クロッカー美術館(アメリカ)において海外巡回展示

平成22年1月16日(金)～3月14日(日)

マウイ・シェファールインターナショナルギャラリー(アメリカ)において海外巡回展示

イ 創作事業

国内外から将来性のある若手作家をスタジオ・アーティストとして受け入れ、世界各国および国内の著名な陶芸家をゲスト・アーティストとして招聘し、互いに芸術的刺激を受けながら創作活動ができる環境を提供する。また、創作研修館は世界に誇る陶芸の拠点であるとともに、創作の場や滞在制作された優れた作品の展示を通じて、地元若手作家や産地陶器業界との交流を促進する。さらに著名な陶芸家により制作寄付される作品を陶芸の森の優れたコレクションとする。

今年度より、独立行政法人国際交流基金主催の「東アジアクリエイター招聘プログラム(21世紀東アジア青少年大交流計画)」、国内外の陶芸関係団体等のNCECA(アメリカ)、アトリエ・ダール(フランス)などと連携し、創作事業に参加する若手作家の掘り起こしを図る。

ウ 情報収集発信事業

陶芸を通じて人・もの・情報の交流により陶芸文化の普及啓発を図るため、国内外の陶芸に関する情報を収集し、ホームページや情報誌等により国内外に発信する。

エ 子どもやきもの交流事業

世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携し、陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を提供し、将来にわたる陶芸ファンの獲得を目指す。

(3) 地元陶器産業の振興に関する事業

滋賀県経済振興特別区域に認定された「国際陶芸産業都市特区」の対象地域であることを背景に地域産業、地域文化として信楽焼陶器産業との連携を強化し、信楽焼の伝統技術や国内外の多様な陶磁器制作技法を紹介する。また、フィンランドからデザイナーを招聘し地元企業と陶芸の森の三者の共同で、新製品の開発と産地デザインの活性化に取り組む。

ア 信楽産業展示館の管理運営事業

信楽焼産業の振興と市民の文化向上に資するよう滋賀県立陶芸の森の設置目的と調和させながら信楽産業展示館の運営および施設利用の活性化に努める。

(4) 企画事業

展覧会図録や関連グッズ、オリジナルグッズ、陶芸関係書籍を販売する。インターネットの活用により商品の提供や販売の促進に努める。また、創作研修館に滞在するアーティストの作品販売により、作り手と使い手の橋渡し役を務める。